トピック

「教育のつどい２０１９in 滋賀」レポート

8 月 16 日(金)から 3 日間、滋賀県で「教育のつどい 2019in 滋賀」(教育研究全国集会)が開催されました。この「教育のつどい」は、学校の教職員のみならず、大学などの研究者、保護者や教育関係諸団体（ぐんま教育文化フォーラムのような）の人たちが集まって開かれます。全国から集められた約 370 本ものレポートを中心に討論と研究が行われました。群馬から参加した大山仁先生にレポートを紹介していただきます。

「群馬県高校入試問題の問題（教育のつどい 2019 レポートから）」

群馬高教組　大山　仁（吉井高校）

多忙化する入試業務

群馬県では数年前にある高校で入試の解答用紙が一枚行方不明になり、大騒動になりました。原因はいまだに不明ですが、それ以来入試業務のチェックが厳格化し、他県での採点ミス報道も影響してか、入試準備・実施・採点に関わる日程が大幅に拡大しました。その間、生徒には家庭学習を指示して入試業務を行うため、そうでなくても少ない三学期の授業日が減ってしまいました。さらに、2017 年度から新たに前期入試に学力検査が導入されました。これによって、前期選抜（2 月実施・国数英）と後期選抜（3 月実施・国社数理英）の二回の入試業務は、必然的にほぼ倍増しました。これに先立ち、県教委の前期選抜の学力検査導入方針に対して、私たち群馬高教組はいち早く反対の声をあげました。しかし、県教委は「県民からの声」・「中学校からの要請」などを理由に多くの反対の声に耳を貸さず、「入試は専権事項」として学力検査を強行しました。

そもそも、高校入試は受検生はもちろんのこと保護者や中学校教員を含め多くの人から注目を浴びる大きな業務であることは言うまでもありません。公平な入試をするには採点でも最大限の注意を払う必要がありますが、限られた時間の中でそれを正確に行うことがなによりも求められます。特に、記述式問題では、採点の前提となる採点基準が明確に確立されていることが必要です。単純な採点ミスとは別に、採点中の「揺らぎ」・「ブレ」を避けるために、採点前には、長い時間をかけて採点基準を作成し、採点中・採点後も幾重にもチェックを行います。しかし、唯一の記述だけを正答にするのでない限り、記述式問題の採点に「揺らぎ」・「ブレ」が生じやすいことは記述式の宿命でもあります。

全国の高校入試問題をみる

今回、私が高校入試の記述式問題に着目したのは、今まで自分が行ってきた採点作業への様々な思いを総括するためと、2020 年度末から始まる「大学入試共通テスト」国語問題に記述式が導入されることがきっかけでした。しかし、改めて他県の入試問題と比較することで、図らずも群馬県の入試問題にいくつかの特徴があることがわかってきました。

全国の高校入試国語問題について、いくつかの観点で私なりにまとめたものがあとの【表】です。記述式の解答のうち百字以上の記述式解答が課されているのは、47 都道府県中 34 都道県です（72%）。群馬県では前期選抜の国語問題でも百二十字以内の記述式解答が求められており、国語入試に記述式解答は当たり前だと思っていましたが、他県の状況からするとそうでもないことがわかり、大変に驚きました。

採点基準はブラックボックスの中

後期選抜では、評論問題で制限字数とマス目を設けて解答する問題のほかに、小説問題で登場人物の心情の変化を答える問題と、会話文と資料を読み取った上で支持する意見に対する考えを述べる問題が課されており、受検生の苦悩もさることながら、教員の採点作業を長時間化する原因となっています。

さらに、全体の 80%を記号式解答が占める県がある一方で、群馬県では記号で答える解答の割合が少ないことも特徴です。記号式解答やマークカード解答が導入されている理由に、過去の大規模な採点ミスがあった県の例もありますが、人為的なミスを無くすためには有効な方法といえます。

また、群馬県では大問ごとの配点は解答例と共に公表されますが、小問の配点は示されません。各校での判断で傾斜配点や配点区分の増減が認められていることによるものと考えられますが、受検生は受検の翌日に新聞や Web 上に発表される解答例によって○×は付けられても、それぞれの配点が公表されていない以上自分の得点は分かりません。そもそも、記述式解答では自己採点するのは難しいことですが、それ以外の答案すらおおよそ何点だったかがまったく分からないのです。このことからも、群馬県の高校入試が、受検生を指導する中学教員および採点に関わる高校教員の膨大なエネルギーとは裏腹に、合否が気になる受検生や保護者にとってブラックボックス化していることがわかります。

さらに、群馬県では解答例以外の採点基準は一切公表されず、県教委から示された小問配点をもとにした各校での採点基準によって採点が行われています。一方、ある県では詳細な採点基準と採点要領を県教委のサイトで公開している所もあり、群馬県の状況と比較すると、あまりの大きな違いにますます暗澹たる気持ちになってきます。採点が各校の裁量に委ねられていることを評価する向きもありますが、県下一斉の同一問題において採点の公平性が全く顧慮されていないことは大きな問題であり、「揺らぎ」・「ブレ」の発生しやすい記述式解答が多いことと併せて、群馬県の高校入試では、受検生に対する採点結果および採点済み解答用紙の全面開示に耐えられない問題を孕んでいます。そして、これらの特徴＝問題は最近新たに発生したものではなく、これまで多くの指摘があったにも関わらず、数十年来連綿と続いているものばかりです。

県教委に改善を要請

現在、群馬高教組としてはこれらの問題点の改善のために、5 月に行われた県教委高校教育課長への申し入れに際して、「高校入試の前後期制の一本化」「無軌道な高校統廃合やクラス削減計画の見直し」などの諸課題と共に、既述した問題点を噛んで含めるように指摘し、過去に遡っての大量処分者を出した他県などの例を参考にして一刻も早く改善するよう強く要請しました。これに対して、他県の再発防止・改善策などについては一定の理解を見せたものの、問題意識の共有が図られたかどうか定かではありません。これまでにも組合側の再三の指摘に関わらず捗々しい改善が見られない現状にあっては、県教委が「入試は専権事項」との頑迷な姿勢を崩さない限り、今後も改善は期待できそうにありません。それどころか、大学入学共通テストに記述式を導入する文科省方針に便乗して、「最近のトレンドになってる記述式問題を増やしてみちゃった！」というのであれば、安直な思考（指向・嗜好）と軽佻浮薄な形式主義に侵されているとしか考えられません。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

（上記の内容に加えて大学入試の記述式問題についても触れたレポート「『改革』を指向する思考あるいは嗜好」を「教育のつどい 2019in 滋賀」で報告しました。興味を持っていただけた方は下記までご一報ください。

（大山仁　jinkun3700063@yahoo.co.jp）

全国高校国語入試問題における記号・記述解答の概要

	都道府県	採点基準公表	小問配点公表	記号式解答			記述式解答			満点
				割合	配点	配点％	100字以上記述	配点	配点％	
1	北海道	○	○	20%	12	20%	（字数制限なし）	8	13%	60
2	青森県	○	○	30%	35	35%	150字～200字	10	10%	100
3	岩手県		○	40%	43	43%	なし	0	0%	100
4	宮城県	○	○	40%	37	37%	160字～200字	20	20%	100
5	秋田県		○	20%	16	16%	200字～250字	12	12%	100
6	山形県	○	○	20%	23	23%	200字～240字	18	18%	100
7	福島県			40%	?	?	150字～200字	?	?	＊100
8	茨城県	○	○	30%	30	30%	160字～200字	10	10%	100
9	栃木県	○	○	50%	39	39%	240字～300字	20	20%	100
10	群馬県			20%	?	?	140字～180字	?	?	100
11	埼玉県	○	○	40%	40	40%	13行～15行	16	16%	100
12	千葉県	○	○	30%	30	30%	2段10行以内	12	12%	100
13	東京都		○	70%	70	70%	100字以内	10	10%	100
14	神奈川県		○	80%	83	83%	なし	0	0%	100
15	新潟県		○	40%	35	35%	120字以内	12	12%	100
16	富山県			40%	?	?	2段180字～220字	?	?	*40
17	石川県*		○	20%	17	17%	200字程度	10	10%	100
18	福井県		○	20%	13	13%	200字～240字	15	15%	100
19	山梨県	○	○	30%	25	25%	240字以内	15	15%	100
20	長野県	○	○	30%	28	28%	なし	0	0%	100
21	岐阜県	○	○	40%	31	31%	なし	0	0%	100
22	静岡県	○	○	30%	15	30%	150字～180字	6	12%	50
23	愛知県			70%	?	?	なし	0	?	*22
24	三重県	○	○	50%	20	40%	160字～200字	6	12%	50
25	滋賀県	○	○	30%	17	17%	100字～140字	16	16%	100
26	京都府		○	60%	32	64%	なし	0	0%	50
27	大阪府	○	○	40%	23	32%	なし	0	0%	72
28	兵庫県	○	○	80%	65	65%	なし	0	0%	100
29	奈良県		○	40%	21	42%	100字～150字	6	12%	50
30	和歌山県	○	○	40%	39	39%	8行～10行	15	15%	100
31	鳥取県		○	50%	25	50%	8行～10行	6	12%	50
32	島根県		○	50%	22	44%	150字～180字	6	12%	50
33	岡山県			30%	?	?	なし	0	?	*70
34	広島県	○	○	20%	5	10%	250字以内	10	20%	50
35	山口県		○	40%	33	66%	8行～12行	7	14%	50
36	徳島県		○	40%	28	28%	2段10行～13行	15	15%	100
37	香川県		○	40%	16	32%	2段150字～250字	8	16%	50
38	愛媛県			30%	?	?	300字～400字	?	?	*50
39	高知県		○	40%	21	42%	なし	0	0%	50
40	福岡県	○	○	20%	11	18%	2段10行～12行	15	25%	60
41	佐賀県		○	50%	29	58%	なし	0	0%	50
42	長崎県		○	40%	31	31%	なし	0	0%	100
43	熊本県	○	○	30%	16	32%	6行～7行	6	12%	50
44	大分県		○	40%	18	30%	81字～120字	5	8%	60
45	宮崎県			40%	?	?	なし	0	?	*100
46	鹿児島県		○	40%	27	30%	2段6行～8行	9	10%	90
47	沖縄県*	○	○	50%	22	37%	140字～160字	6	10%	60
	＊過年度									*他情報